



子どもがルールを守るようになる2つのポイント

ポイント① 一緒にルールメイキングする

児童期になると対話したり、話し合ったりして一緒にルールを決められるようになるため、ぜひ少しずつ一緒に考えて、ルールを作ってみてください。一度決めたルールがうまくいかなかった時は、新しいルールを作り直したり、お試し期間を設けたりすることも大切です。ゲームやタブレットを使わない時は引き出しやボックスなどに入れて、見えないようにするのも有効です。視界に入るところに置いておくと、「やりたい」と思うきっかけになることがあります。

ポイント② 決めたルールに対して子どもの合意を取る

ルールメイキングする時に大人が怒っていると、子どもは圧を感じて合意せざるを得ないこともあります。決めたルールに子どもが納得していないと、結局またルールを守れなくなることがあります。話し合いをするときには、子どもが話したいと思えるような心理的安全性の高い雰囲気をつくることが大切です。

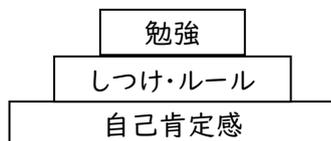
子どもがルールを守れなかったとき・・・

決められたことを守ることは大切ですが、守れないことも必ず出てくると思います。ルールを守れなかった時、それを素直に言っても怒られない、**守れるように伴走してくれる**という信頼関係を親子で作っておくことは、長い目でみると大切なことです。中学生くらいからは、児童期にはやらなかったような危険なことをやってみたくなることがあります。そんな時も親子の信頼関係ができていれば、きちんと打ち明けてくれることでしょう。その先の人生において、子どもが困ったり悩んだりした時に、正直に話してくれるようになるよう、今から考えていきたいですね。

出典：『まだ宿題してないの？』『いつまでゲームしているの？』毎日同じ声かけにうんざり。モンテッソーリ流、子どもがルールを守るようになる2つの鉄則とは』（小学館 HugKum）
<https://hugkum.sho.jp/616124>

しつけ、勉強のことだけ問題にして、叱れば叱るほど、逆に身につかなくなる

○「どうせ自分なんか役に立たない人間だ」としか思えない子どもが、どうして勉強に意欲的に取り組んだり、社会のルールを積極的に守ろうとできるでしょう。「自分なんか、どうせ生きている価値がない」と、固く思い込んでいる子どもが、どうして主体的に自分の人生を前向きに生き抜いていけるでしょう。問題は、この「土台」なんです。



子どもの心が成長していくうえで、土台になるのが、自己評価、自己肯定感！



○叱れば叱るほど悪循環、言えば言うほど逆効果になっている子を見たときには、「この子の問題は、表面的には勉強をやる気がない、ルールを守らないというように見えるけれども、実は、この自己評価（自己肯定感・・・注）が低くなっているんじゃないかな」と気づいて、もう一度、この土台から育て直す。（中略）「あなたは大切な人間なんだよ」「生まれてきてよかったんだよ」「大好きだよ」という気持ちを、しっかり伝えていく。そうして、もう一度、この土台から育て直していけば、そういう子は、少しずつルールも守れるようになるし、また勉強の意欲もわいてくるということなのです。

出典：『子育てハッピーセミナー』（明橋大二／1万年堂／2008／p.25、33、50-52）